

# 習志野市庁舎

Narashino City Hall

No. 10-053-2018作成

新築  
事務所

発注者	習志野市	カテゴリー				
基本設計・監理	株式会社佐藤総合計画	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
実施設計	清水建設株式会社一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	清水建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## 地形・気候・文化と融合した「ひろば」のような庁舎

### 高低差のある地形と融合した配置計画

習志野市の当時の市役所機能は、東日本大震災により旧庁舎が被災したことにより、仮庁舎での運用を強いられ、市民・職員の利便性に支障をきたした状況であった。その中で、機能の統合、防災拠点機能強化、市民サービス向上を目的とし、市民と行政が集い、まちの魅力を発信していく「ひろば」のような新庁舎を目指して計画が行われた。敷地は旧市立習志野高校の跡地で、市民の憩いの場である「ハミングロード」が敷地内を走り、5mの高低差を持つ敷地である。この高低差は、千葉県北部特有の地形である「谷津」という、浸食谷と台地の境目に位置することによるもので、高低差に沿わずよう建物配置していることが計画上の最大のポイントである。

これにより、敷地の高い方低い方の両側からのアクセスを可能とした。また駅からの人の流れが多くある大通り側には、動線にも溜まりの場にもなる大階段状の「ハミングひろば(外部)・ハミング階段(内部)」を計画し、GF(グランドフロア)と1Fの市民利用者が最も多い窓口部門動線には回遊性を持たせるよう計画した。これら地形と一体となった配置・動線計画により、周辺から自然に人が訪れ、市民活動の拠点となる「ひろば」のような新庁舎を目指した。

### 滞在環境としての快適性を追求した「ひろば」空間

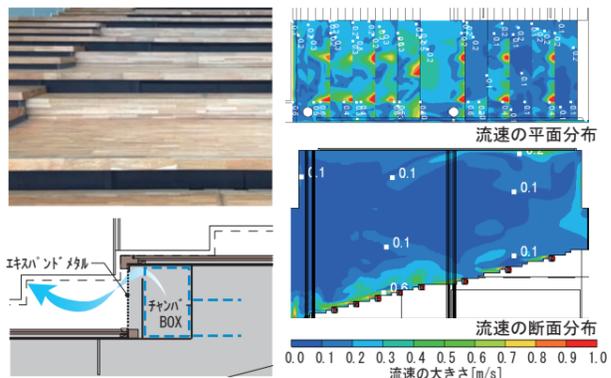
建物内部の大階段「ハミング階段」は、建物のGFと1Fを結ぶ主要動線である。加えて、可動式の中段部を動かし並べることで、最下段の正面を舞台、階段を客席として活用出来る等、多目的に活用可能な設えとしている。実際に、竣工時には市内の中学生による吹奏楽の演奏が盛大に行われ、市民の方々と完成の喜びを分かち合った。このように大階段部が滞在環境となることを想定し、蹴上げ部分に吹き出し口を仕込むことで、足元から居住域を効率良く空調出来る計画とした。この吹き出し口は、ドラフトを抑えるために、チャンバーボックスからの空気を一度面で受けた後、エキスパンドメタルを直交に重ねたメッシュ部分から滲み出ていく2層構造とし、メッシュ部分は取り外し可能な機構とすることで、設備性能・意匠性・メンテナンス性を兼ね備えたディティールとした。さらに吹き出し口の位置・大きさ・数については、階段部の温熱環境及び气流シミュレーションを行うことで、吹き出し口からのドラフトを最小限に抑えつつ、快適な温熱環境と出来るよう追求した。



敷地高低差をつなぐような配置計画



動線にも滞在の場にもなる「ハミング階段」



蹴上げ部の空調吹き出し口と流速シミュレーション

### 外部環境と融合する大庇・バルコニーを四周に設けた外装計画

建物外周の大庇とバルコニーは、水平性を強調する各種外装要素が繊細に積層するデザインとし、地形が積層するイメージを表現した。この庇により直達日射が約60%カットされ、環境負荷低減に寄与する。各課の執務室が入る基準階のサッシュは、全て片引きの横連窓とすることで、職員による自由な開閉を可能とし、気候に合わせて自然通風をコントロール出来る形式とした。また各階の換気は、庇内に設けたチャンバーボックスと軒下の100mm幅のスリットにより確保し、繊細でシャープな外装イメージを損なわないよう配慮した。これら大庇とバルコニーは建物四周全てに設けられており、バルコニーは庇や外装のメンテナンス時に活用出来るだけでなく、避難時の補助動線としても利用出来る。バルコニーの躯体は全てトの字型のプレキャストコンクリートにより構成しており、施工段階の合理性にも配慮している。さらに、庁舎としての象徴性を生み出す軒天の木目仕上げは、特殊技術であるメンテナンスフリーなアクリルの木目調塗装を採用し、建物の長寿命化とコスト低減に繋がる計画とした。

### 誰もが使いやすく愛着を持てるロビー空間

習志野市は子どもから大人まで音楽に親しむ「音楽のまち」を市のブランドとしている。そのため、低層階窓口部門のロビー空間や建物各所にピアノの鍵盤や五線譜等の音楽をモチーフとしたデザインを取り入れ、市民が親しみを持てる庁舎を目指した。窓口に設置した案内パネルや数字サインは、職員により容易に取り外し・位置の変更が出来る仕様を開発し、機構改革による組織改編が多い庁舎の中で、継続使用を見据えた工夫を施した。また床吹き出し空調を採用し、窓周りではロールスクリーンと窓面の間を空調空気が流入する簡易エアフロー機構とすることで、西向きかつ気積の大きいロビー空間を効率良く快適な温熱環境と出来るよう計画した。

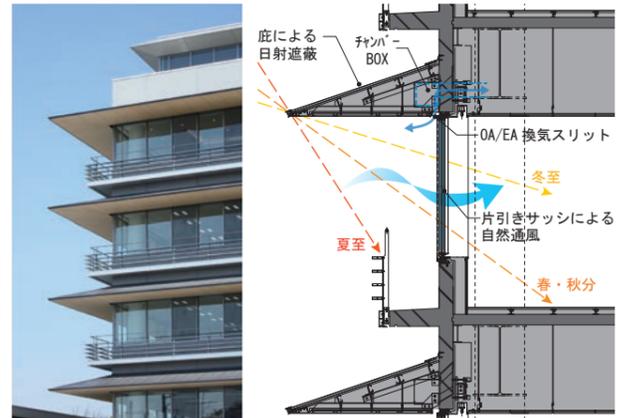
### 周辺環境へ還元される緑と外構計画

敷地脇には「ハミングロード」と名付けられた緑道の遊歩道が走っている。この緑道を敷地内に引き込み、既存樹木を活用しつつ、敷地外周に緑溢れる遊歩道を通していくことで、地域の憩いの場として還元出来るよう計画した。またグランドピアノを模した外部芝生広場「ハミングひろば」や、非常時には防災広場となる「きらっとひろば」がこの遊歩道と連続していくことで、敷地全体に市民活動と交流の場が展開されていくことを目指した外構計画とした。



建物全景

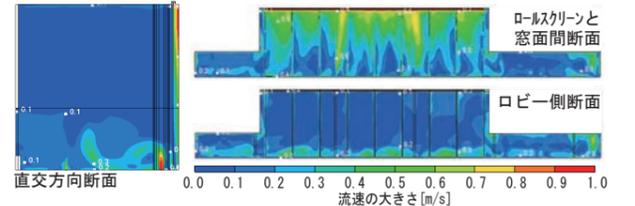
外部「ハミングひろば」



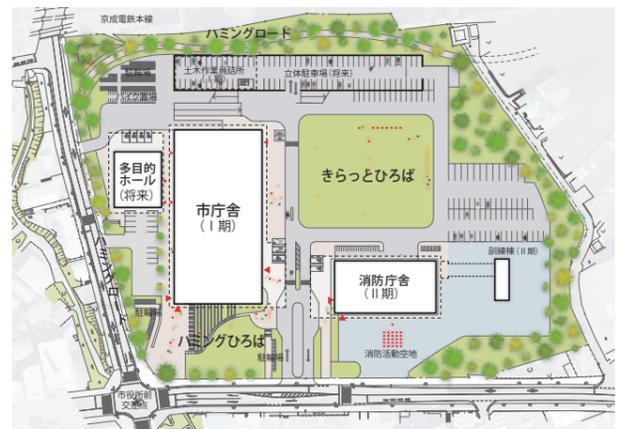
日射遮蔽・自然通風効果をもたらす外装計画



市民ロビーと窓口



窓面とロールスクリーン間の空調流速シミュレーション



敷地外周を緑溢れる遊歩道で囲んだ外構計画

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価		
所在地	千葉県習志野市	PAL削減		20 %
竣工年	2018 年	ERR (CASBEE準拠)		35 %
敷地面積	22,403m <sup>2</sup>	LCCO <sub>2</sub> 削減		28 %
延床面積	19,274m <sup>2</sup>			
構造	S造一部SRC造			
階数	地下1階、地上6階			

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐震性・信頼性 (基礎免震、非常用発電設備)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (地域性のある並木道 (ハミングロード) の形成)
- Q3. 3. 地域性への配慮、快適性の向上 (建物内外を連携させる豊かな中間領域 (ハミング広場) の形成)
- LR1. 1. 建築外皮の熱負荷制御 (水平庇、Low-Eペアガラス)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、照度センサー制御、高効率給湯器)
- LR2. 1. 水資源確保 (節水型器具、雨水利用)